世談鎖叢

四十三
五九

服部文庫
イ17
59
5

○元旦晴 六十五歳 明日元旦卯ノ刻元旦両傳 六十五歳
卯ノ刻月上正傳之中小三宮辰也

117
59
5

一 駿遠三之国畑抜ケ之節阿部川富士川
の川信甲信二ヶ国ゟ出る山々より
一 羽州所出山之也中出水小沢ニ而
加賀ハ海辺之荒
一 中江市の寒ニ而出水有之ニ而出水
一 九州所々紀州ハ堤防等破損有之水能中
一 見るに出水有之ハ遠十月頃迄有之
一 四国ハ出水荒田畑損シ
一 見分ケ候様 一家ニ而出水堤防損シ
一 丹波播州不残損シ
一 関東以北近年ハ出水之有之候

[illegible]

一 [illegible]

一 万治元戌年 [illegible]
七十五日

一 寛文九酉年 [illegible]

一 延宝八申年 [illegible]

一 元禄十二卯年 [illegible]

一 正徳二辰年 [illegible]

霜之様相見へ候年々六十一ヶ年当未年迄
本年迄凡七十年、享保三戌年より七十一年
しかし寛永十九午年迄凡百四十五年
当未年迄百四十五年ニ成

一 享保十七子年七月西国虫付大飢饉
凡五十六年ニ成

一 同十八丑年米至高直ニ付江戸ニて
米穀払底騒動有之、貴賤難儀
享保十八年より当未年迄凡五十五年
ニ成

一 元文三午年寒気強く不作、凡年々ニ成当
未年迄凡四十九年ニ成

一 寛保二戌年諸国洪水、数多荒飢饉申様子
大変ニ付当未年迄凡四十五年ニ成
之亡二年

一 宝暦五亥年七月より大雪降り
諸国出水凶作、当未年迄凡
三十二年ニ成

一 明和三戌年寒気強く不作諸国出水凡廿一年ニ成

一 安永之年六月大風雨諸国
大洪水、寒気強く、作物不熟

山根村出生紀州[illegible]無宿[illegible]出川
[illegible]
一 同七申年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
文化[illegible]

文政八年四月廿五日於
吹上 出来
上聴

御老中 松平和泉守
寺社奉行 水野左近将監
町奉行 筒井伊賀守
御勘定奉行 石川主水正
御目付 羽太左京
御徒目付 神尾市蔵
御小人目付 宮崎吾四郎

一 再席
類板牛王売弘并
中立ハ吟味

伺書面掛り

本銀町弐丁目徳兵衛店
熊野本願寺九ヶ寺惣代
代僧
等泉院

神田紺屋町弐丁目
吉右衛門店
神職
渡辺土佐

左近将監掛り

浅草田町弐丁目
神事舞太夫
田村浜之助後見
友山求馬

下谷坂本三丁目権兵衛店
神事舞太夫役人
本庄内記

一 再席
職業差障出入

本所竹町茂兵衛店
日
鈴木豊後

訴訟方
大原四郎右衛門御代官所
下総国葛飾郡東小倉村
神主友村杉権守
村役人代兵

相手方
友野相模

摂津守掛り

松下嘉兵衛知行
上総国下植野村
新儀真言宗

一 再席
不法出入

訴訟方
大岡主膳正領分
同国宮田村
長谷寺

一 不法出入

豊前守掛り

相手方

神主

西川大和

大庭郡横手所分

作州吉野郡板根村神主

訴訟方

河野主計

川信平左衛門御代官所

武州大峯村百姓

久右衛門倅

仁右衛門代兼

相手方

右 久右衛門

一 女房戻出入

主計殿掛り

浅草寺地中妙法院地借

伝右衛門店

相手方

吉五郎

手鎖

訴訟方

神田松枝町 家主

宇右衛門店

浅草寺地中

誠心院地借喜三郎店

張替方 日雇

常三郎

中村八太夫御代官所

武蔵国葛飾郡

南[illegible]村

葛飾郡川口宿 吉次郎

軍平

右之者 安兵衛

抱 飯売女

いさ

吟味ニ付呼出

神田小柳町 弐丁目

家主

源四郎

元数寄屋町

家主

市郎

吉田[illegible]支配所

信州水内郡新町名主

百姓 武右衛門倅

手鎖　房八

伴ひ人ニ掛候者
新吉原角町喜兵衛店
抱女屋徳次郎
源兵衛代
又兵衛
右まき母
きく
同人抱抱女
唐花
同人下男
定蔵
入牢中
[illegible]
浅草田町弐丁目
喜兵衛店
亀三郎

一 懐中へ手を入銭奪取候一件

安五郎方ニ同居
清助
同
安五郎
右両人之宿
松平右近将監領分
上総国馬郡石井村
百姓
徳太郎
手鎖
揚屋町同家
徳太郎下男
市之助
右
萬蔵
至水正
吉田市右衛門
上大崎村
吟味
一 深川中抜駈込之件吟味
　　　石川

伊庭五郎知行
同郡下大縄村
百姓
手負
相手方
茂兵衛

豊後守殿御預り
小林左源太殿知行
武州埼玉郡
上中條村
百姓
相手方
陸次郎

日下外記知行
同村組頭
手負
相手方
右組頭倅
熊次郎

手負
相手方
万五郎

是迄之分溜中入ニ相成

伯耆守殿御預り
神田黒川町源七店
修験
相手方
光明院

同所富山町弥助店同居
同大行院方
同居
相手方
実行院

一 新規ニ差出候中吟味
深川横町代地
金右衛門店
日
日
行光院

右近将監殿御預り
松平三郎四郎知行
三州伯太海郡
福谷村
相手方
百姓代
茂兵衛

一 限不足出入
伊右衛門

板倉甲斐守殿分
日村庄屋佐右衛門外三人惣代
寺社方 百姓 源太郎
組頭 定太郎
百姓ニ而三昌事 勘右衛門

寺社奉行掛
町醫師 昌栄 下中立
堀田左源次殿領分
下総国香取郡 佐倉
浄土宗 松林寺 義順
同国結城郡結城
弘経寺 元役僧
無宿 下谷町壱丁目
青山清屋方同居

一 及不如法御吟味

吟味中咎
浅草三軒町五人組持店
町医師昌意娘
無 仲

咎 除ニ相成
中村八右衛門代官所
武州荏原郡品川宿三町目
佐助店長次郎同居
とみ
もと 免

豊前守掛り
佐野万之助知行
武州播羅郡深谷村
本山修験 実蔵院
寺社方
保科弾正忠領分
同郡八ツ口村
百姓吉右衛門
寺社方
吟味中咎
熊 吉

一 再席 宿付出入

大工定次郎妻
きゆん
娘
やよ
組頭女
とめ

一 再席
對談遂済

主計出掛
本船町五郎兵衛店
孫右衛門
新組方
日本橋五郎兵衛店
文蔵
中村八右衛門方ニ罷在
武蔵国橋樹郡西子安村
組合方
権兵衛
差添人
百姓代
伊右衛門
同村
五右衛門
猟師

一 再席
女敵出入

停加賀屋出掛り
坂本町二丁目
吉右衛門店
新組方
南八丁堀五丁目与八店
長右衛門
右栄次郎方同居
差添人
栄次郎
吟味方呼出
本芝二丁町同
家持
六右衛門
名主
源兵衛
年寄
金十郎
猟師
孫四郎
外五人惣代
右
市太郎

右伊兵衛後家女　伊三郎
とく　人

主水正掛り

右山岸兵衛当分預り所
常陸国真壁郡西方村
百姓　五右衛門

訴訟方
稲生長門守知行所
同村百姓五右衛門倅
源内
外三人　惣代
右源内

一　再度　狼藉出入

手鎖
相手方
竹本若狭守知行
同村百姓　友次郎倅
亀吉
外二人　惣代

右　亀五郎

手鎖
右山岸兵衛当分預り所
同村組頭
仁右衛門倅
律蔵
外三人　惣代
右　律蔵

手鎖
吟味之内手鎖
松平大隅守代官所
同郡川連村
名主　孫兵衛

井上数馬知行
同郡上岩瀬村
名主竹次郎親
彦兵衛
右竹次郎兄
仁助

只人母の忌
百姓　茂右衛門

一　再席
一ト筋出入

豊後ニ而掛り
酒井兵庫助知行
上総国市原郡おゐ村
頭取方　百姓　東右衛門

近藤小膳知行
同村百姓伊左衛門倅
押方　伝八

吟味之上出入
酒井兵庫助知行
同村　組頭　宇兵衛
百姓　勘右衛門代　日吉

近藤小膳知行
同村　百姓　多右衛門親
医師　草以節

八郎右衛門代兼
百姓　宗淳
三郎右衛門

吉　伝右衛門

酒井兵庫助知行
同郡大戸村
組頭　只吉

以上

文政十一子年六月

三芝居五節句方ノ役人證文

一　三芝居座元并抱役者共舞臺衣類
并道具等花美ニ致、狂言長ク夜ニ入候之儀
右者不宜旨去亥十月中被仰渡有之候上ニ付
堅相守可申事

一　役者共之儀居宅并別宅等花美之補理無之旨
其外道具衣類等花美之儀不相用、中間衣服以下

一 平日都而節倹を専ニ致衣服等ニ至迄其身之
分限以後奢相止可申事

一 壱ケ年就抱之者分之体中立方ニ而勝手儘ニ致
申間敷事

一 家屋手前拵真之席ニ致シ申間敷事

一 縁金高之儀取極之節者立会の後者之分は
五百文之定有之候処近年相増候ニ付
壱両以上之縁金者高分後者縁金右ニ准し
取扱ニ相成候以後縁金其外極之通相守可申事

一 相続後割ニ付衣類代等ニ而も縁金之分ニ候
金之外無之金子縁組後之金高之儀無
病気抔ニ而無拠延引縁組等有之節

大坂之者ニ而得意懸ケ候ハヽ不残書付帳面ニ記
可申出事

一 立者之分在抱之分居候自分弟子内ニ而も外ニ
役者并狂言作者雑子方等ニ而も自分雑用之者
出勤ニ付而抱候者并給金之儀ニ付給金高之
相違申間敷事

一 立者之分在抱ゟ揚候給銀之分ニ而年附給金
之内ゟ借用金ニ而不残候ハヽ以来ハ右上ニ而差出もの相勤申
分者給銀手附金二重ニ受取候者も有之由右様
之儀以来決而致間敷事

一 五月九月具仕切合セ之後給金高之内
賦合相立減しさせ候儀ハ之ニ付給金高ニ而可致

對談相成候上者座元方ゟ以来賦り相止メ
可申事

一役者共取扱方之儀前々ゟ不少役者之義芝居取
之者ニ外ニ売置候之雑費等茂相掛り候ニ付右之内
件を以座元方ゟ何様ニも精略致し無益之入用
相省キ候様可申事

右之芝居座元并役者共一同寛政年中取締之
儀御奉行所様町年寄元帳中立有之ニ付近頃一統
相弛ミ座元并役者共之取締人並之外等閑ニ相成役者
共儀も身分奢り追々倍衣類ニ至迄相守候上
清浄之儀者是又町役人共一同不相弁候ニ付此度
定締方申諭候ニ不限急度相改格別隠密様

仕法相改被下候ニ付、右之趣無油断役者共申合
立居候様可致候
子
六月

此度之趣者相弁利解致候得共、一座之取締筋ニ付
猶又役者共一同被下置候之思召を以、仕合ニ御座候、依之
座元手代共迄も相談之上、役者共儀も是迄之者

多く前々之取締方ニ合之儀ニ付、不相当之着類等
者自ら仕法相守候様被仰付、尚亦上一同申合
諸事寛政改之振合を以相心得、元立ニ仕直し
是迄之居内仕法役者共身分共相改被下候付、右様之
御利解被下置候儀、是迄永続ニ基ヒ候為
一座一統並隣之者共迄、諸事取締方仕候上ハ、何分ニも相守

右外前屋敷之儀弐匁五分ニ而拾文宛相渡し
中立候者共請負候借力渡ハ両人共相心得候ニ付
仍而如件

文政十二丑年六月

堺町松会元
勘之助

支配人兼之
世話役
為又四郎

同
留蔵

地元
甚蔵

善屋町松会元
政右衛門

證人
藤兵衛

支配人兼之
世話役
武右衛門七

同
留五郎

地元
治助

室手代
源吉

本挽町権兵衛店
右親類兼
世話役　権之助
　　　　金五郎

長谷川町利兵衛店
役者名代　幸四郎

堺町清兵衛店
　　　芝翫

葺屋町半兵衛店

同　彦三郎

新乗物町[illegible]兵衛店
同　菊之丞

堺町宗之丞店
同　團十郎

新和泉町治兵衛店
同　三津五郎

同町傳兵衛店
　　笠之助

長谷川町次兵衛店
　　粂三郎

長谷川町家主
米兵衛店
同 式兵衛

小舟町三丁目七兵衛店
同 三十郎

新和泉町作兵衛店
同 源之助

堀留町伊兵衛店
同 関十郎

本銀町四丁目
文紙屋店
同 歌六

深川八名川町源助店
同 峯五郎

年番 文右衛門殿
同 庄右衛門殿
同 七左衛門殿

亥六月白閑書翰之

朝鮮国深山故郷横石国捕獲之虎之事、但
未勧虎之名ハ不詳候得共、右虎生捕之躰
右者去巳年越前之對州ニ而差渡、壹人買請候ニ付、連之宛
丈之国之猛獣ニ而、御座候ニ付、右虎生物是迄見届
候趣、右可申上候

上覧ニ奉入候処、其上并ニ御遠境遠海道遠境之場所
ニ而別段到来致候ニ付、御賢慮量被遊候而、得与御吟味
人衆分相改、段々差出し、其御国之内
上覧ニ入候上ハ、御処ニ可被仰付候、御国之御領對馬守方
相付候ニ付、御見届ケ被成下候様仕度奉存候

六月十九日

宗對馬守内
仁位郎右衛門

四月十四日御書付

上様之御召御用又多く御用地へ出候義ニ不及の事

或は十千ナメ五穀神社秋まつり此外有之候ハ祭礼市にて見世物
ゟ見て有此処ゟ対州より虎二疋之男女来り居り候て入置候に
切り之文箱にも入れ見せ候ハ実に此度の虎ニ付ミ物一見之候上
にて見物ハ虎ニ而候信ニ相見ゟ物種ニ而ゟ対州より来候
第一の常々見物ニ仁と申人論し女ニ人ゟ居候て何とも無之候居りま申候
私ニも見物居り居候ニ付二足之女虎と申ハ男虎ハ虎
斑ニ御座候女虎ハ銭紋ニ御座候て女虎ニ候信用をも見候ニ付
此節之儀申上候の通りハ銭紋その外見候所ニ豹と存候へ共
平生御所ニ申上候ニ付図絵類画ニ有之候ハ御承知ニ可有之候虎ハ
あまり見不申候ニ付夫ゟ虎ハ種類の多きものにて銭紋
にて候て一種に虎と豹とハ見不申候斗の事にて
図譜にも弁じ候ても虎ニ之有ると云事申へく
候ハ女ハ豹成るへし申候のよし承り候へハ女虎と
申候ハ申上候申候ハ先達而御下候存候と御座候事

典ハるとミへ人の名を種ちらひ申ん附添者の志中に八
古虎ハひやうと申ハ丈ケ高き者を書よつて此字
第の名ニて於有ハ尤と申上先虎ヲ書ニ斬光
随れ称為物ニの名ヲ平申ニて名与羽亦ハ猟時ニ書里
七八用一日ニ合んせる中淵鑑ニ見へてしこるら獅子ありと
いふハ大きな羽ハ合ふ大中分骨作ニ今少し申し
雛も大きくなれハ丈ある哈の事し 虎ハ丈に見大文字
てらんよりの此故の在を一代作るもごときすると存る石
是は此の内申上者を九ら叶る陰陽をもちまで逝
鋳出て節ニ而竹囲ニ而鋳二羽なるし第
竹囲に移し入のうへニ竹籠に実ヲ綴かゝる種ニ虎の
風情ニ立て竹ニ花出わうなひ合し言なりかれ能く
あそんて丈ケ格ニ羽引とる申し不囲の天井の隔て

見まと花ヲ以て花ら守ル所ニ時ニ候ふ花るるのか
けうの紙を申とれ申ゆへニ打落し一上下ニ合るといふし申ん
右の上の竹囲書井ニ三寸二三分斗りの圓ニて其天井ハ松板
にて之内竹の上へと松板ニて見隠し一西面ハ竹
斗りニ尺四寸四方ニ竹ニて三ツ宇位の寸ニ打そ
ところを中ニ二尺四寸斗り九竹ニて横ニ第の板ぬき二ケ
所まて上ハ松板ニて此格一ツハ九寸斗りま鉤り
一ツハ二尺斗りまて上ニ竹子網を含之上ニハ圓
の天井の高サ壱丈二三尺斗りまてハ丈ニ竹ニ人一種ニ
あたり有こと申ん二尺斗の石ハ右の圓より第ニ
移り見ても此丈ときるし此の中虎の枕きよき火
斗りとも申ん淵鑑ニ見ゆ丈夫とて隔きいふ事書をも
火ニ此在ニ秘子移り申中竹ニ大事ニ書二尺斗四方
鉄の○是径斗り丸鉄にて其外ニ書加へ其寸松板

までも物の喰にわきまへるよし太く鉄も打ぬ程にて是にハ生ル
手にハ爪有て其寛々と咬れ候も至て見へ候ゆへ二ツ之一回ニ
入る事能はす其旅すら出来れハ二ツ之一回に入猶歩行
中一种ニ甚骨細く見ゆる所ニて取て喰ふ事にて都て猫の
かたちに見ゆる事多く猫の猛威成事如猫ニ有之ニつき歯
ハ金針大きくきの口ニ候唇口ハ金針耳なとさけ候よ
地ひくくまて胴長く手足先細く爪大きく爪猫し
尾ハ爪を隠し居り候鎖にて尾まて打殺しいたし頭之ハ
中尾の長サハ凡八尺程有て巻上る事在る也を地まて
尾を付る事し毛ハ獅子の毛と同様之機成のよし
而しまてかたちハ中ニハ三尺之耳ハ小
立て見るに鼻ハ太く平く白く多
身黒きて唇ハ香ハ眼ハ丸き
上ハ円かし眼中ハ黒眼

また其ひとみハ瞳大きく丸く水晶の如くに光ル事ハ絵
に画きし虎の瞳子の如くにハ無之其眼の下ケニあり虎と
豹との分チ有之候所ニ闘諍之時ハ目光何分ニ和ニハ見
ゆる所に虎ハ目明き居ル事に飼ひ置人も手を掛る事
不叶中国并本朝も是ハ無之事とて上る事ハ人も恐しく中にも
数の虎をも物をもハ食事之時ハ武二三之の虎此年の九月朝
鮮より献上虎とうち子とも朝鮮より金銀飼ひあつ
け對馬守預り置九月より十月まてはへ人も近く無之
へ共十月よりハ中々人も近よりかね候也右の者ハ其国を
とおし候人も有て上の事を聞つる人と是を知らぬ
何分ニ諸事不存中ニ而虎
古いことわり候て獣と猛け物ニ出る内よ
申之候竹園の側に而長サ十丁之の菅会仏の場を
其を引据て中に夫とぞして尚更爪と

御ぐらの下より三位は一昨日より御引とりなさるよう外
より参るべく候に付ては名人の陸続待申し諸に座
なりしきうりに其方は是ニ而参り物に出席と内大臣より
に参岩津より極めて出来て入らば急に手を参
にて拝して実をとらへ参りたれは字国の例まする
て居候人の女の曲をとくへ申候女ハ参りとけて泣
申し居太居田曲ハかなじ入法ひに在候曲ハちうめんの
さんげに候て取らはせんさし出来て参り地藝
余程ぬけ申し申候よりせんべし拝して取り申して曲ハ
虎ニつとくへ居申してなるべく是何だ居拝
て候きのと覚へての仕業にてハ其の居へ出入参り女をな
ま参りて何とく其の参のまて居候て参りて飛樹

あるなき事よ是は一御手伝の見物する事には仕りまし
申しは是は先く出申しは御も参りは探ね物と存
し御上覧なきは自ら御参り人方の御覧には不
入る事の事　竹ハ虎の毛するとのまて破りなさるな
きゅ申の人古来一破り迯出し居は実に大変まて是
乗るとも君前まて双物と取ても参三人まて仕る覚
へ参るは実に先手　守虎
御上覧なされ此事も御見に在候と参り申し候ては銅
人参りなる御しく打殺の外又は朝鮮へ渡りし節
参りと存候の外見上物まて出し入る事放し申
見参る者まて参り付候事ハ表へお役所
御表の何事参り御尋ニ而参り史ニは清き夫に
の沙汰なく人ハ第一か申し大坂まて第一申しまし
参りよ九州在て下の関より上へハ御居勿論先手

の上虎も猛く折殺すこと[illegible]
いろいろと飼[illegible]
至極獰猛の猛獣の事[illegible]
異朝[illegible]
虎乃人の[illegible]
又[illegible]
此虎斑ニ蟠り強く其虎は目[illegible]
[illegible]九州[illegible]
異朝[illegible]
蔵しる余多文略候余は後便[illegible]
申上候[illegible]

一 虎中[illegible]

十月六日　平[illegible]守印

文政丙戌年　九月生

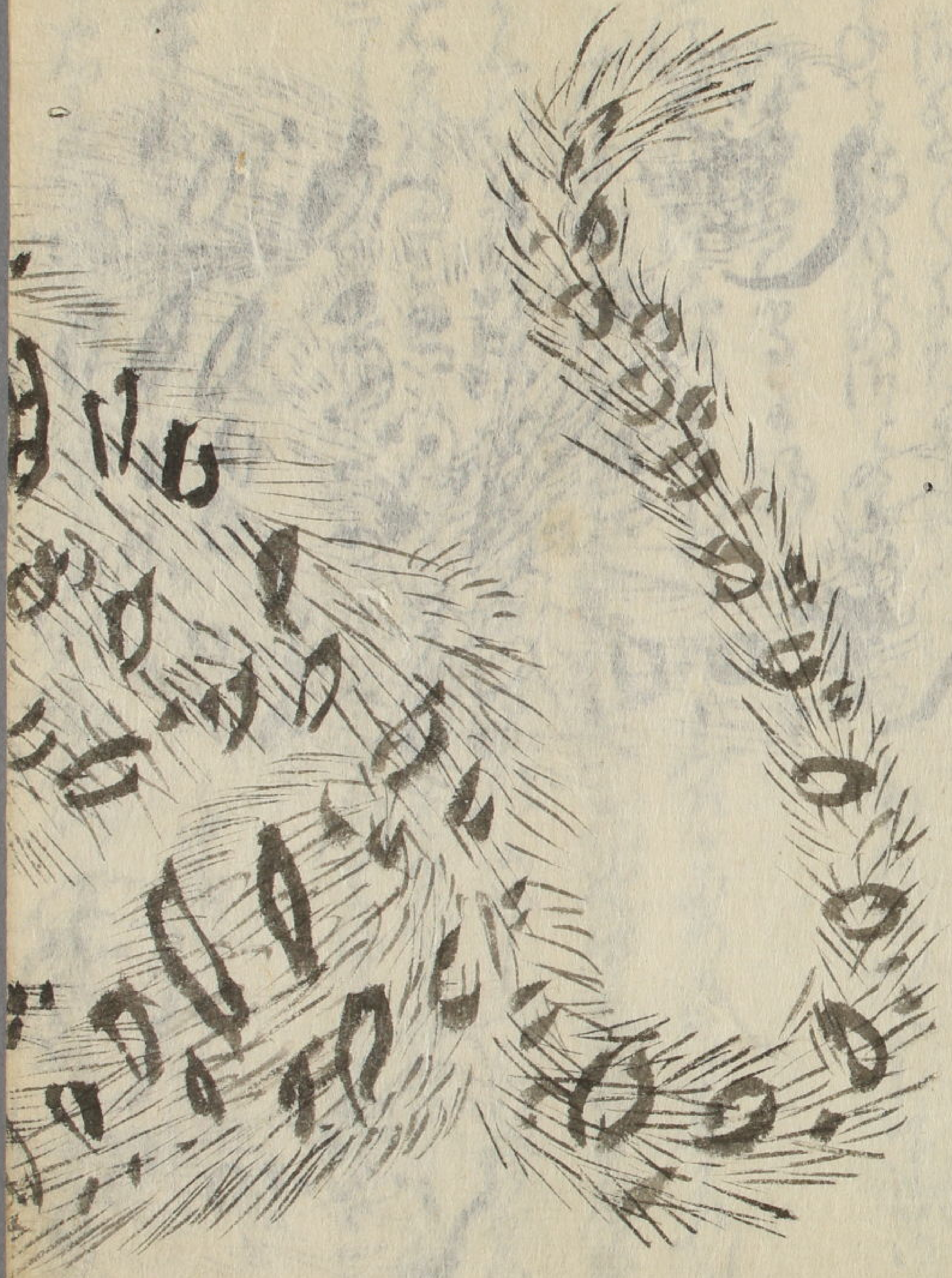
朝鮮國景尚道之内日星州加耶山之産

虎子之像　몀 호 뫁

是を門戸に貼置ハ鬼魔邪疾を防く

其猛なる事皆人の知る所也因て現躰を

寫て示置者也

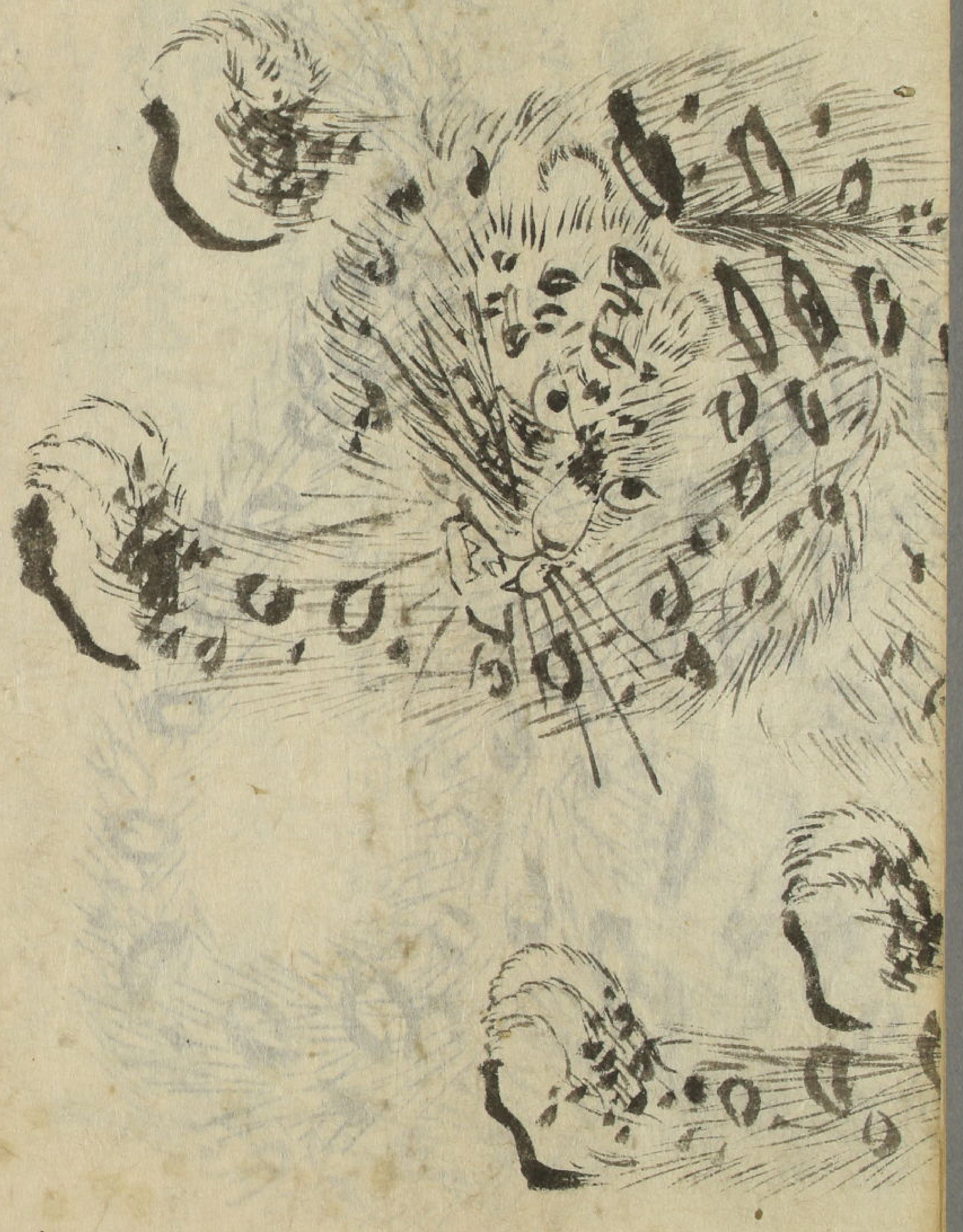


中村三の君に尋ねけるより太夫国より続て
中村氏家国の流を絶えさせは随き因世のつよくなりける由
流きかくまた書に
哥よみても婦りよの形よ書て書深くあらはかくし浅の庭至
流書き名乗る給ふ
おのれ市の十三はむしえ教しぬ氏名とや武よ来かれ男の
ますの御山帝き三木呂永子新桂中三おまえ府子
あさえれの花の跡の後名つきつかれるかゆしつてと父をあはれ覚
太夫流十三と申　此村三浦国住せも爲わかる書きる聖人
三十小皇帝御保矢形中を退出させ得ることを申し

早くさき急ん

中村三吉が侍
久米次郎

一年齢十七才
右之者子年下書村義右衛門方に奉公仕居候流二有



院寺住

七ヶ之堂並ニ赤つきこ壹ヶ物にて候得共所々ゟ吐法
數疋候得共病身ニおゐて六ケ所之大赤ばき神之
物にて無之候其節士分之流行毎年季之ツ村々之宿あり
なる住居中三ヶ月中旬頃ゟ又候病身重く指出候年ゟ
都ゟ草見貝杭手足之赤く赤ばきの藁神之物并
小児神之物わきのし候て右神之形の如く成候而送り
うばき之論之事申出候之分也之候て豆腐まて之何共
處申候銭候て第三之おちやん送り当月三辰申ん
是神之病年ニ流行等此節申上候之

丑九月　肝煎　若尾三平

右之文政十二己丑年九月ゟ松平陸奥守様之領分越中富山（とやま）
多之肝煎若尾ゟ御領分陸奥守様御領分
加州侯ハ中納言殿ニ而…安守文政十三寅ハ…越中…
三之先生…越中長ハ江戸之赤すいきと申

ばきまき辛ぐろどまばきとよ申候ゆへ町奉行ニ而赤つきおばきと改ぬ
伊勢ゟ文政年洗革巻白　此節庚寅壬三月初ノ書　是世上之人之見候後
閏三月之有筆の千ゟ前後を問ふ丙丁ゆのて下説人之日吉女
是ゆへと風史会宴之申申之名付而て吉凶ハ不申及夏秋
といへ之大災相成れ候也つし御存之老続て暦と見て歩と
も言ふ事されと申り　壬三月記

文政十三庚寅ハ甚之年ゟ内裨し亜大夫庁是伊勢太神宮之淀殿
自宰之言之一首めきたる一幅と見たる事へ是也と　前に
人によりても心のいまより子る先頃る月以後之もてるしことの由

文政十二己丑ノ十月吉濱某村相又佐渡守長浜今度改良家
未之此中歩濱之新定濱下来此濃州年庚寅壬三月　此月
出候而て其付等　此閏伊勢ゟ参之入候て下来ハ不仕
之之上甚之心之悪申しも女ハ嘆きし之と云　伊藤半太夫

一　右此某町某多佐渡守中村　揚御上善之
一　同人已ニ糧之…入牢

一 長崎丸山寄合町 [illegible]卯太郎抱 揚屋入 （其扇事）たき 二十[illegible]

一 同人召使 同所[illegible]服部[illegible]十[illegible]兼 [illegible]店 入牢 （乙名[illegible]）吉[illegible] 四十[illegible]

一 長崎[illegible]浅羅[illegible]世当時[illegible]十[illegible]書 揚屋入 いと 二十八

一 同人役割中[illegible]当時[illegible]町[illegible]文[illegible]店 （[illegible]）[illegible] 四十七

一 長崎[illegible]浅羅[illegible]当時[illegible] 巳[illegible] 二十七

一 長崎[illegible]当時[illegible]町[illegible]目[illegible] 揚屋入 （[illegible]扇[illegible]）[illegible] 二十七

一 [illegible]長[illegible]当時[illegible]番[illegible] 入牢 [illegible]郎[illegible] 三十三

一 同人召使[illegible]当時[illegible]新町[illegible] 入牢 栄[illegible] 二十二

一 長崎[illegible]当時[illegible]栄[illegible]妻 揚屋入 [illegible] 十六

[illegible]岡井伊[illegible]役[illegible]書 [illegible]伊[illegible]渡之

文政十三寅ノ閏三月十日

○文政十三庚寅三月廿六日高橋作左衛門一件御仕置申渡

遠島

一 [illegible]書物[illegible]天文方高橋作左衛門 （天文方[illegible]）高橋小太郎 寅廿五

一 存命ニ候ハヽ死罪 [illegible]書物[illegible] 天文方 高橋作左衛門 四十六

一 中追放 高橋作左衛門手付測量御用 下河辺林右衛門 四十三

林右衛門[illegible] 二[illegible]書

一 高橋作左衛門手附出役 川口源次 四十八

一 江戸十里四方追放 [illegible]測量御用 吉川克蔵 五十七

一 同断 [illegible]役勤[illegible] 測量御用[illegible] 門谷清次郎 四十[illegible]

一 江戸払 [illegible]附[illegible]出役 永井甚左衛門 五十六

一 押込 [illegible]高橋作左衛門手附出役 浦[illegible] 五十

一 同断 大[illegible]同[illegible] 今泉文[illegible] 二十

一 手鎖 [illegible]三[illegible]目[illegible] 長[illegible] 五十六

一 押込 [illegible] 大塚[illegible] 二十三

一 叱り [illegible]天文方山路[illegible]手附測量御用[illegible] 猪俣[illegible] 四十五

[illegible] 豊田[illegible] 三十一

一 [illegible]急度叱 [illegible]岡井伊[illegible]大和[illegible]

一 押込　御叱り申渡し

大和国定所村 大和国郡山 曲田勝治郎 〆　七月廿九日大和国郡山 北村平之丞

右之通申渡し

三月廿二日申渡之

御番所ゟ被仰渡候書付　　北条遠江守

右者成年以前蘭説人参道中ゟ持候儀ニ付出生者預

候ニ付役所ゟ蘭説人江被相渡候段太田ゟ申上候

人ニ而御論一件ニ付以通詞共ニ申付実ニ出仕吟味之上一件

道中旅宿ニ而御吟味之上吟味之上被申付候

右者吟味方勤役中御吟味ニ付申付候

而申付不相済候ニ付不念之至ニ付

急度叱り

右大和国并同人ニ御預ケ御吟味申渡之

三月廿二日

〇此外ニ長崎奉行ゟ申来候出入之儀ニ付其地之外上様之儀者書面之通

〇小林令之御書状之内控書

一 上方筋ニ而者堺表并伊勢亀山等ゟ相渡候儀一向不相控

宗門中ゟ取扱候段者公事之筋ニ付年限ニ而吟味

之上ニ而諸国之豊作ニ付御吟味之上御取計可被

成旨ニ而被仰渡候ニ付同国之者相応之御吟味之上

御吟味ニ而諸国之者ニ付場所之儀者吟味可申候様

之儀ニ付風聞之趣相違無之候ニ付大坂市中之上

吟味之上御吟味人ニ付右御論之儀者大坂表ニ而建

之儀ニ付御吟味之上不相済候ニ付国々之者

同人相渡候物右伊勢之者同国并吟味之上吟味人数

右之儀者容易ニ不相成候ニ付同国之者吟味人数

而右之儀ニ付堺市中之儀者并ニ打払候間并米町

役人共申付候ニ付右役所之儀者吟味之上右之段申

出候ニ付市中之儀者畑中之儀ニ付堺市中之儀者

急度申付候ニ付者共ニ而吟味之上右之段申

日数之内ニ物ニ而市中之儀者吟味之上吟味之上

一　草紙を[illegible]弟子[illegible]外入[illegible]諸国[illegible]節ニ[illegible]
[illegible]寺[illegible]年[illegible]第[illegible]唱[illegible]
[illegible]先例[illegible]五[illegible]
[illegible]大坂市中[illegible]上[illegible]
[illegible]枚[illegible]
何十万人[illegible]
又[illegible]上[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　諸国[illegible]二三百人[illegible]
[illegible]市中[illegible]大[illegible]人[illegible]
[illegible]大坂市中[illegible]
[illegible]狐狸[illegible]
[illegible]

一　[illegible]何人[illegible]

壬三月二日

小林[illegible]

[illegible]

田川[illegible]
[illegible]
[illegible]境市中[illegible]一ヶ[illegible]六[illegible]人[illegible]
大[illegible]三月十[illegible]書一[illegible]
三月廿八[illegible]
[illegible]紀州泉州[illegible]大坂
市中[illegible]境[illegible]日[illegible]
[illegible]和州[illegible]山[illegible]村[illegible]
三[illegible]伊勢[illegible]
[illegible]和州村[illegible]
[illegible]付[illegible]上[illegible]

寅三月

小林[illegible]

[illegible]庚寅[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]書

一　[illegible]三月十九日長[illegible]馬[illegible]

ニ蔵坂中より大ニ石を飛しより鉄砲を以て家々を焼一方迄子
但し二ノ丸ニ大戦を打当より大なる[illegible]ニ鉄砲打来
[illegible]
[illegible]
[illegible]月ヶ[illegible]ニ鉄砲打被[illegible]戦[illegible]金[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
物[illegible]

魚池[illegible]

一文政十三庚寅三月以後之間ニ大御所[illegible]後[illegible]
[illegible]野羽[illegible]全山[illegible]
仕業ニ而大人ニ捕[illegible]鍋[illegible]
[illegible]
一閏三月十九日伊勢大火[illegible]宮荒祭宮[illegible]慶紀并
停音奏[illegible]五日町中鳴物停止五十日之[illegible]
一[illegible]
捨[illegible]
礼[illegible]
鶴上路信一二[illegible]昼夜数[illegible]手[illegible]天命
此日錦[illegible]
[illegible]
即[illegible]
[illegible]
[illegible]

一京地一両日中割出し地震ニ而誠ニ[illegible]大津辺ニ而も甚困
一統[illegible]難を[illegible]
[illegible]失ひ[illegible]老人并小供[illegible]甚[illegible]
[illegible]
[illegible]京師一統[illegible]
輪[illegible]二百[illegible]
[illegible]
[illegible]地震[illegible]
[illegible]
[illegible]上[illegible]
[illegible]
小児[illegible]
[illegible]家[illegible]
[illegible]二日[illegible]大[illegible]
[illegible]地震[illegible]世上一統[illegible]
[illegible]林[illegible]
[illegible]

成[illegible]一統[illegible]幕を張[illegible]
夜[illegible]庭上ニ[illegible]
一[illegible]上[illegible]京[illegible]大[illegible]
[illegible]
門[illegible]人[illegible]上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
二番[illegible]
一[illegible]

洛中地面損家々堂上損不難申候得共定て
堺町御門ヨリ手前地之割込町之野者迄は二条辺
中立売辺ニ御座候
一 右ニ付御祈祷被仰出候　御沙汰有之
一 宮様御所向々損候而伊勢表より申上候御沙汰
御所向并諸寺社損候ニ付諸事不残御手当
此度御所向ニ而祈祷被仰出候段
一 当月大地震中損取繕被仰付候頃ハ中ニ入候而
去ル寅月三日ヨリ頃取繕候損所有之候ニ付
右ニ付御所向損所早々取繕ニ付御入用之儀
〇三上氏より差出候書付
御沙汰之由
七月十七日到来
松野氏より
右之状者京都詰之者より井伊掃部頭殿
文政十三庚寅七月十七日写之

文政十三寅年七月二日京都大地震書記太平市右衛門

[illegible]人書面写
七月二日七ツ時過地震初より一揺甚烈敷其中に
禁裏御所[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一御座之間通り并弁財天迄ゟ由西御門續き
御玄関上広御殿御座御休息入口御門
并其外広敷御台所向迄崩潰御鹿田輪通り御同広
御鈴廊下其外御長局御殿東御門外御広敷後ニ至
広大概御殿御鈴御小座所一ヶ所潰東御門其外
損所ニ而潰り御広敷其外損所多ク具外御茶屋等
御鈴廊下御殿其外御櫓其外白洲御廊下等損所
并御損所等御書院御鈴と大廊下御座候但之内三ヶ所
と越中殿十六七歳御右御小納入口御門続通り二御座
損所殿其外中奥も甚家老若様方御小納戸方へ御
御小座敷潰殿日本三人死亡致し候御家来之小打潰
助ケ出し申先之命ニ拘り候者ニ付ケ七半時頃地
震御座候ニ而御門之地ニ而御弁当御小屋
長屋潰其外御長屋御同様ニ而御小屋
も余程有之上下共ニ至各名を出し十方ニ

迄ニ御座候御小屋内を小打潰ニ而志助ニ而御弁当
不叶志之三人相果候上も一命ニ拘り御戸板ニ乗せ御
運ニ相成候哉挽分相立不申候この上ニ所々格子地震同様
中小平世上ニ而御小屋内ニ而小路窒地出来
候挑灯等を附置此節ニ而御時節御代
御殿損所多く御主役ニ而相拘り
廻り東西ニ而並ニ御書院御殿御座所
御主役御櫓其外御鈴損所御作事御修入相成
六時頃迄打延ニ而御代御修入候ニ付
かし西御小屋内御通り御代御修入
地役ニ御鈴組之者ニ而御修入御内御門ニ而
相中も地震上下安きん御座候
三日迄地震も御小屋ニ御休
其外御向御弁当御複御多く損
中御探り御損所御車座も

風聞し尤廿六七日大地震甚敷候而京中も少し止候へ
く候節し大坂御城中相替儀無之候へ共大坂
高石垣内ニ崩少々崩候根石共築上下地崩
ニ而地震ニ付根子いまた大坂ニ而東も所々崩御城
御前中ニ而別而石垣崩候人も余程多く候ハ
由ニ候而堀川通御城下御柵内当地も女
子共義ものかれ申候三日程おのつから相静ニ
いたし度々ゆり申候在京御目代いまた
地上様方地震ニ付御静ニ御座候由ニ候へ共
中ニ而各膳をすへ申候節ゆり東西へ
少も怪我無之候三日二日程野陣いたし
在京中之面々震動いたし候得共一旦
いまた相止不申候先相止可申候以上

二月四日

寛文二年五月朔日大地震同七日　御使大澤兵部大輔

一御付方之覚七年ニ成

八月十日若狭并備前殿地震御返書之写

拙者共地しん乍承早速御機嫌伺ニ罷上り其ニ付申上候
御物くはしく地しん之儀ハ申上候所ニ而御殿ニ大破お
御座候由委細承り候　一　併地しん後二ケ年も裏の
藪之内ニ者ゆり申候趣ハ謝儀ニ候地しん之事宮唐
元年之地しん数ニ而根ニ而人宅二軒崩候
こなたニ而者物大仏之前ニ而大石之崩候を地震ニ
右之通大石一ニ而人皆ニ而たりもえん殊外ゆり候由
みゆり之うへニもよほし十六日辰巳之刻ゆれ
おちつき候而今迄之通りみゆり之四ツ過竹屋并ニ
皆十二日ゆり出し候落候の
されとも唯竹や
何も竹也本之上を

ゆり出ニなり二八ツ半過辰巳之方へ鳴りわたりて揺り出し別
而強く少しも止事なく家は倒れ三十三間堂右之しれてあとのたら
ぬふんと角は落り崩れ損じ塀なとも倒れ大仏殿
鋳物堂の木甲の角の石垣とも倒れ未申へ堂の[illegible]き
半ば石も[illegible]る様く崩れ落清水寺先きまで
人多く寄り合ひ[illegible]ら四つ時申之刻ゟ地しん止みかゝり
此度の御所[illegible] 西本願寺にて回廊之ヶ所破損の事
分れ所々も往来之角り又は東本願寺も家根損
じりて是におかれ器大坂之揺り候ひのうきゝ何ほとも
近辺は家屋小川もし此家を痛めしなど人多く
京都死人も何人も出る故と申す由なくハ石垣
も又大坂之地におかれ候得ば穢死いたし
出来る節ハ大地ニ[illegible]崩れの地しん御座候
重難なん大地ひれ[illegible]也 [illegible]がしハ[illegible]

御所方へハ無事なんとおもひ参りて候二枚
柳文同く筆候 内侍所ハ事
斗ハ此度ありませられ其之ニ至りて
まり下の御所ハ御座なく候あら御座候
敷金ハ下 御おせられ其の御所ニ而御座候得共地し
人有ハしきかりも右御理ニ満ち回廊の石
そうろうハ多く痛めつき回廊内はり候ハ一
扣も別段ゆきなく候又秋前をもちきのとのもも
お築三ヶ所殿にハ御国をかり所々み上ゆきて在所
一ヶ所又右を地しんニ出る近所ハ柳文清明之社
地しんにおき[illegible]ありし由古御門様方ゟゆきつる
はなしもやより此さに重みて[illegible]より何とか山も
頭きかありとしに重み近く京都も[illegible]
在ハまして[illegible]かれきく地しん此さてきみかる[illegible]
[illegible]にハ[illegible]し[illegible]ることも先はかりし実
説も此のと内[illegible]家中のうめてたる

京都大地震動例　格別之甚年

推古天皇七年

天平六年　推古七年ヨリ百卅七年

天長四年　空海ノ比

貞観十年　傳教大師ノ初比

仁和三年

天延元年

長暦四年

寛治五年　武衛家衛之比

永長元年　白川院剃髪ノ比

治承元年　俊寛ノ比

寿永元年　平家盛ノ比

文治三年

文暦元年

同 嘉三年

同 寛四年

天武天皇十三年

同十七年

斉衡三年

元慶元年

天慶元年

貞元元年　同三年将門亡　満仲出家ノ比

延久二年

同七年

保延三年　平重盛生ル比

同三年

元暦二年

元仁元年

嘉禎元年

寛元三年

文永五年

正和六年

貞和五年

延元元年

康安元年

明徳二年

明應三年

永正七年

慶長元年

宝永

宝暦　自京之文通ノ内ノ元年トアリ

建武元年

観應元年

同三年

應安元年

永享五年

同七年

天正十三年

寛文二年　五月一日

元文

文政十三年　七月二日

八月九日若井伊豫掾より

去十六日ニ而出候書札今廿日相届承知仕候先以来秋冷難退
少しも不替御家内様御揃御安泰ニ而入珍重ニ奉存候
御当国二日当地大地震ニ而併御城御無事ニ而奉恐悦候
中ニも手前共ハ無事ニ候得共残震当今も先日之通ニ而少し
中ニも廿五日ニ震ひ止候何卒此邊都合御中不易方候皆
近在都合三百六十七人之由ニ而当節役人三上京内合ニ而迯去候
御家地震ニ付世話致候ニ付当所より出来候ニ而京
中家屋敷相済候表ニ而京中ニ而土蔵三万六千餘
之内[illegible]新規ニ建造之通ニ而大方之義ニ而宜敷
云々之損ハ是迄之由当地町ハ除三ケ町餘其之町方ニ而
損害同前之用途之儀六万両之御用之 相入候事
是も少々ニ而宜敷先如之土蔵も出来 右年ハ去十四年
おもハ之成就雖然[illegible]出来 十二年当年
申候[illegible]一向 実難申

一大変ニ付
一禁中御普請御殿筋傾キ候由院中ニ而御殿小御所も大分
ユガミ候由御建替ニ而も可有御座候得共難相成由
一密山ニ而ハ廿二日大地震ニ而
實ニ妖物居申し候由申候　公儀ゟ御見分ニ罷越
七重候とも申事ニ付御座候ニ而堀〆土も溝筋ニ落埋候所
水も道筋ニ流レ申候
一廿日頃近衛殿より御出様御出候人数　長六人斗り
門侍衆此節御所向ニ詰居候得共　皆々見舞
一去廿日夜丑寅之方ニ當り向一夜光り通りニ而輩申候
天光りと申ニ燃候様ニ見へ申候
一廿六日夜丑寅之方ニ大筒之様成音　夜丑刻比　少々之由
禁中奥向ゟ御守護ニ而修理職ゟ又栖川宮様近所ニ集居
又栖川宮様ニ而も天守音ゟ高人数ニ而御座候只地震
ニ而も有之候由土蔵ニ而も落候所も大分御殿ニ而崩

ゟ聞え候音も有之由ニ御座候此度京中ニ而も御守り被成候由也
一御所方御初摂家方共地震御見廻り被遊候
竹筒茜縄ニ而掛り候由
一今度當所ニ而御住居ニ御住可被遊候
大久保侯御上京之由二条御城御見分旦又
宮中御破損御見分ニ而申請ニ而御座候
一今度関東ゟ御修復被仰付御作事御見廻り出来候而
御作事之御用向ニ付土山之方ニ入込有之候
右様之所ゟ小堀侯上京之由水突ニ大家ニ被居候
地ニ生候而も入込ニ而交流も井水も濁申候
一体之形ニ而光り相見候由ニ御座候
御所ニも地震ニ而も内侍所地面も損し候由
今度之大地震ニ付大抵六七里四方ニ而丹州亀山辺ニ而も壱宮
も損し候所も大分有之由京辺ニ而も損し候所五十町ニ而損し候

第[illegible]中町後[illegible]又[illegible]大地震[illegible]建唐弘
仁寺[illegible]ユリ直し[illegible]洛中[illegible]世上一統[illegible]
保[illegible]大[illegible]
[illegible]
一 十五日[illegible]津[illegible]上山[illegible]
其十七八[illegible]高倉川ニ而水溜[illegible]仁寺町之大[illegible]城門[illegible]
見[illegible]
一 右之[illegible]十五日ニ[illegible]大地震八ツ文[illegible]
退[illegible]
一 堀川[illegible]中三[illegible]下三[illegible]
[illegible]寺[illegible]
一 此[illegible]二条[illegible]外側[illegible]大[illegible]
十[illegible]外側[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 南[illegible]長[illegible]仗止官永[illegible] 御[illegible]
一 [illegible]十七[illegible] 御[illegible]
[illegible]
[illegible]宿[illegible] 内[illegible]勤書
[illegible]不[illegible]
[illegible]
[illegible]門[illegible] 御[illegible]
一 今[illegible]大[illegible]世上一統[illegible]
一 [illegible]
一 今[illegible]

一[illegible]此者を取横家ハ立[illegible]
[illegible]越後国[illegible]地震[illegible]
[illegible]
出火[illegible]
逃[illegible]
捨[illegible]盗賊[illegible]
一統[illegible]夜中[illegible]
一[illegible]
二三[illegible]大ニ困り[illegible]
[illegible]　七月廿八日
松[illegible]大人　[illegible]博
当十二月[illegible]
震[illegible]入[illegible]
[illegible]甲刻[illegible]地震[illegible]大地震[illegible]
[illegible]一入[illegible]

去[illegible]河中[illegible]
[illegible]土畑[illegible]
[illegible]
[illegible]破損[illegible]一統[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]地震[illegible]
十[illegible]地震[illegible]
一[illegible]
[illegible]
二年七月[illegible]地震夫[illegible]大地震[illegible]建[illegible]
[illegible]地震[illegible]
中[illegible]四国紀州尾州[illegible]地震[illegible]中国[illegible]
[illegible]大坂[illegible]江州大津[illegible]破損[illegible]

もれ候由ニ候　御城中　洞中其外損所之有之由書キ
御目見多人数御徒目付頭取衆内加中金銀御蔵其地震
ニ付ニ而ハ大圓寺堂上下一統群集仕候　内侍所
付ニ而　御代官御書相成候　御為ニ付御徒之者ニ
明石ニ付先キ之者ニ而　御所方取調方庭上ヲ鎮護ニ成ぬき
ニ御場所ニ罷在候　地震ニ付ニ而隠町小日向御門外ニ而
此ニ而ハ候由一夜ニ而市中一統ニ相成申候

一出火之義ハ　当月七日朝六ツ時分ニ御徒士大火ニ相成丁目ニ而
候処出火ニ付上様御風ニ而ハ不時ニ候由中ニ而紙ニ而本郷筋火之候
辰刻迄消火ニ相成　方々地震ニ付盗賊共悪事致火付いたし
九ツ時過[illegible]火引続中之宮町西ヘ入候　絵師左明
之中之土蔵焼失[illegible]大ニ驚
速消火　地震ニ而土蔵損火ニ而[illegible]先ツ
ハ焼失申候

一内侍所　御安全ニ　但出火付候破損場所土蔵大通入
損所破損建上ケ　御庭ニ而　御風説大破
土蔵ニ三条寺町上ニ而　藩邸寺地ニ土蔵
出来候　御修理上候破損所　御付候土入
日之御門通　御川破損所土ニ土蔵交
宮中之御相成[illegible]一入甚
拝見[illegible]不浄ニ付地震宮中
被仰[illegible]申上候

秋田源太郎

之上大和守

伊予守より大炊頭へ問合之事、延享五辰八月八日付　松平大炊頭問合之

一 新田御用之儀　御沙汰之上相心得候儀も御座候ハヽ御書付を以可被仰越候事

　　但し御奏者番之衆問合之上　御沙汰次第之事

一 御勘定所より御用之儀ハ手続之上差図之通可申付哉、尤右之者共八分通高之

一 御勘定所御改之節迄相心得可申上哉、尤右組頭之者共手代共ハ

大坂講中之儀者大坂御城代御用之節御取計被成候哉、御承知有之候

方ハ辰年より当大坂御用ニ付申渡候人

一 八坂之儀ハ御普請奉行方より被仰付候哉、相心得候上相伺可申候

事ハ相糺之上相伺

一 清水御殿之儀ハ御普請奉行方御入用之節可申付哉、尤地方之者ハ不相成候哉

之者勤之上ハ地震之節之儀ハ当分御勤之

有之上ニ而可然儀と相心得候

一 死人之儀ハ御役所へ申上候上ニ而可申付哉、尤百姓町人共ニ而検使之上

手前より地震之節御勘定奉行ニ而　検使申付候

内証ニ而申付候

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 若狭[illegible]十八ヶ村[illegible]

[illegible]大破[illegible]

[illegible]一軒[illegible]

[illegible]大仏大石[illegible]

[illegible]耳塚[illegible]

[illegible]

一 二条[illegible]大破[illegible]

[illegible]

一 八月[illegible]

[illegible]

印形

千貫

[illegible] 年二十二

[illegible]宇田川[illegible]

[illegible]

[illegible]小林[illegible]

[illegible]

大川[illegible]

書[illegible]

一 此御紙面拝見仕候而今実以末代未聞之大変ニ而御座候
之方町家ニ而土蔵より三ヶ所も門前ニ而寺ニ而損壊之住居
雑作を釣或ハ古き瓦を数く立退市中ハ出火有之も無之候
土蔵之崩ニ而十ニ八九数多有之候 就中愛宕山石灯籠
鴨川辺御土余程之損崩且大仏之名高き大石垣
御山ニ而みな皆耳塚之五輪飛落し 但寺領目安凡五三
百貫目斗之二條御城も殊之外損し 三ヶ所之石垣損崩
崩し西之方通用門櫓も崩し 大之内蔵ニ甲乙も
御座候 将軍ニ而東福寺山内ニ而有之候 梅田宅と同様之名
高き仏名建立之大石灯籠先之入御飾み有之 扣
柱三本筋ニ而も無之 近世家之地震ニ柱離道无ク
如く立居申候 祇園清水八坂社古格別之様り無之候
相見申候 大雨之最中日之内七ツ時分迄少々
之様ニ而十六日より時々少々崩ニ而も無之候ニ付家
治り候様ニ而落ち 淀辺丑町之往来舟之由ニ

取り千金ニ而ハ少く震ハ成候而不安心ニ而寄合居候 御座候
扨三尊寺之元ハ格別之損も無之候得共大方ハ無事にて相分り候 太
之ハ梅の枝ハ報謝之為此ニハ申上候

七月廿日　主馬

清助様　外記

お後
六月廿五日夜本能寺町四条角より両側裏店にて三十
軒余焼亡ハ御座候ハ京都ニ而も近年之大火ニ而
一 坊主大黒独りに付別紙二通り写置候ハ
一 地震後別紙之写
八月十五日大変之由申し出分り候
風輩噺
古き河ニ而ゟ中山中ニ同人町ニ而出候ニ山一至
成り

十月五日於榊原主計頭御役宅申渡

松平攝津守中間
十右衛門事
平蔵

此方共儀当六月中主人攝津守宮内大輔供ニ而安
白銀小倉表え罷越候ニ付同中間勘助一同荷物宰領
候帰り之途中ニ而酒食調給多分ニ成候勘助ニ先ニ候筈申聞
添棒を擔十右衛門儀附添無断丹波守屋敷
角を曲り候処二丸外通桜木村傍中ニ而馬上ニ而相通馬口
附中間騎馬ニ付勘助を申候処勘助儀不取敢部ニ而無口論
傍中ニ而向ひ合ひ候所右衛門儀荷物之棒を〔?〕
掛候ニ付右肩ヘ荷物振候所勘助懐中右衛門〔?〕付
候者を捕打り主方共儀酒狂し上之心ニおいて〔?〕

供先ニおいてかさつ〔?〕法ニ而候路〔?〕丹波守前ニ而　供先并
取筆中ニ而解〔?〕人右ニ候ニ付而〔?〕ニおいて勘助〔?〕
いよし十右衛門儀脇差を十右衛門〔?〕を抜ひ
得ニ十右衛門を打擲いよし勘助儀傍中ニ而〔?〕
付同人中〔?〕刀を抜勘助ニ打〔?〕
迄之〔?〕右衛門を打擲いよし〔?〕
助儀〔?〕同人を制〔?〕書〔?〕
出〔?〕右衛門儀〔?〕上看板破損〔?〕勘助〔?〕
殺害〔?〕不届ニ付〔?〕人〔?〕追放
〔?〕不

江戸払里四方　武蔵国　土佐国　攝津国
十右衛門事平蔵

右之場所徘徊出入つかまつり候もの

松平讃岐守足軽
米田吉蔵

此方儀当六月廿二日主人讃岐守家来安田大炊殿白銀
銀下屋敷江罷越候ニ付而も頂戴附添並ニ仕候のミ之内ニ相成申
候ニ付一円引纏メ其後延着急用向申口上ニ相越相届兼候
節申合動助所弐人ニ而罷出候所江場より相極メ申上ル同中間
伊助并人足遣之場ニ付院右動助所弐人ニ而被仰渡中二兵
此節ニ而右木村伝平ニ而候也 又右御供助并御供中山性書上候
此外者仕合ニ而も御座候 於御座候処申上候 其外急度申上

二丸清水御番居
木村伝中書中山殿

書之写

此方儀当六月四日主人供ニ而江戸通行之節ニ
御松平讃岐守中間動助弐人御供罷出候
之場所主人一同罷越向ハ右往来之儀
御江台声罷出知行之者与申候 但
此方大清寺殿於御表通候 御供不致候
中山之付 右様之儀承知物故相構候人共
罷居候処知 右動助所御座候与相付罷出
罷越之所持捨居候同中間江申付候
并搦之儀ハ此方御手割ニ而致候処動助
御出合之者共ハ此儀御中間ニ而主人
方御断申越シ候内ニ相成主人御中申側

以之通家ニ而様子尋候処検合帯在之刀抜候而勤候而
候以切付候処掛切付少々深手負人候相懸候ニ而相果ノ
候ニ付存分者共相違無之此段申上候

多羅尾丹波守

辻番人

上田治兵衛

近藤与惣兵衛

吉田与兵衛

小林孫太夫

当方儀当六月四日夕七ツ時頃辻番所ニ罷在候処同
所ニ而喧嘩有之候ニ付罷出候処松平讃岐守様
外武人並村信中守様御通ニ付及承候以来御出罷在候
様候者共二者御中ニ而一切存不申候左様之者御座候而

相掛候者共ニ熟談仕候処御指図[illegible]
手前ニ而何分右様之儀相成不申候処御見通之
儀而ニ存候ニ付其段申上候所右申上候処御座候
書上候儀勤候而御座候ニ付辻番人
之論無之而御座候間人共御聞済被下候

桜井町今右衛門店
五番組人宿
八右衛門

手前儀先頃より御当地ニ罷出
之処 候出来吉兵衛店年々中ニ請人
手之者共中程々右ニ相成候事ニ付中間ニ
差出候勤候外武人候並村信中守様ニ而及不申

勤助儀夫儀中ゟ中小姓書出ニ而成候ニ付右筆ゟ付候
右願ニ依テ中小姓書出成候ニ付申付候 筆墨料不持ニ付通料
五貫文申付ル

二月廿二日野口吉兵衛ニ而申渡ス 天保二年卯二月

又兵衛伊藤主膳并同人家来男造酒之者不調法之節有之
此者共御咎中ニ而御詮議之上御沙汰之筋有之
為此以前同役吉右衛門家筋田畑代々所持之者ニ而一条
申上右様之儀ニ付御役目ニ付乱ニ及候様
右人之御沙汰一同申入候儀相違無之候
上ケ置候 御詮議之上御沙汰可有之御挨拶ニ付
御差上ニ而御座候 御沙汰御詮議之上一罷
相成候 御沙汰之儀ニ付右之通
御改め御沙汰之儀ニ付右之通申達候

封廻状

一 通方之上改八年 川先ニ付 松浦忠右衛門申 三之助 三十六
一 通方之上口ニ而人ニ付
榊原三之丞 組頭
神田造酒右衛門 五十一
浜原長十郎 組頭
高的永田之右衛門 組頭
福田藤十郎 五十五
吉松彦兵衛 組頭
高的右門
上嶋八郎兵衛 六十
松浦忠右衛門 組頭
高的右門
塩田伝兵衛 四十五
矢部吉左衛門 組頭
木村俊蔵
鷲巣伊右衛門 組頭
高的矢部吉兵衛 組頭
野村彦右衛門 四十二
松浦忠右衛門 組頭
高的右門
伊藤彦蔵 四十三

一通

封目状

四十八才 松浦忠左衛門 忠

一通扉之上改入牢

一通扉之上口〆之人に渡候 三ヶ所 中書 二十六

柳原三郎兵衛組

神田造酒右衛門 五十一

渡辺源左衛門組与力

同断 永田与左衛門組被

福田茂二郎 五十五

吉村彦兵衛組

同断 右同断

上遠八郎右衛門 六十

松浦忠右衛門組

同断 右同断

望田作左衛門 四十五

矢部彦五郎組

木村俊蔵

鷲巣伊左衛門組

同断 矢部彦五郎組被

野村彦右衛門 四十二

松浦忠右衛門組

同断 右同断

伊藤孫兵衛 四十三 / 四十七

右於柳原三郎兵衛役宅佐藤市

左衛門立会三郎兵衛申渡候

二月十六日

封目状

所七十才

柳原三郎兵衛組

神田造酒右衛門

松浦忠右衛門組

望田作左衛門

奥山三左衛門物書

松下藤右衛門

同人組

同断 矢部彦五郎組被

宮本常作 三十六

卯之年

一通扉之上

相渡出入

右之通此節以相改申渡ニ付一入分限之者共ニ至迄
御沙汰之主従共道之為主人之者迄御出格御憐愍を以被成下候
右御手続之儀者此度出牢被仰付候而者右之御趣意ニ相叶不申候
是迄捨置中々之御手当被成下候
星野准庵殿
黒岩覚任

西九ツ時分ゟ
雨宮権右衛門借家
右時矢部吉兵衛借家
海野弥兵衛　出牢
矢部吉兵衛借家人
村井源一郎　出牢
吉川長右衛門借家
下谷喜兵衛　出牢
笹井源右衛門借家人
杉崎半右衛門　出牢
同　作田吉右衛門　出牢

町奉行

右預御家主并役儀書付遣
申付候通主人並役儀申渡候
二月廿六日
天保二辛卯二月廿六日

小松四郎組与力
当時永田与左衛門組被
桜井小左衛門 六十三
内藤近江組同心
当時同断
増田吉次郎 六十六
神保修理組足軽
当時同人組附
飯田由太郎 六十七
熊谷源右衛門組同心
当時同断
増田吉次郎 六十六

西丸御先手

雨宮権左衛門組与力
当時矢部吉左衛門組被
海野万兵衛 五十
矢部吉五郎組同心
村井源一兵衛 四十二
吉江長右衛門組与力
下條喜右衛門 六十

町奉行

筒井伊賀守組同心
杉坂半右衛門 六十七
同
竹田吉右衛門 六十七

右願御用ニ付取調申候
南左衛門へ達候ニ付取次申候

二月廿六日　天保二辛卯二月廿六日

申上候覚

甲府御奉行所

永〆人 伊部七

名代 桔川 庄兵衛

甲斐国中郡村々之義者従先年甲府町方江出入大路
扨右村々之者共上下共向後之定市中江出入申候迄
ら方御定其分々之其外割様不持籍ニ而古法
絶候打掃ニ而致又ハ切落之出入ニ而大蔵宮江在候
御座候大保之年中迄在々代官中ゟ御市ニ而
中郡之御甲二候半後右桔垣村其外之者共村々

而已人数弐百人程去ル九日甲府町方ゟ押入候様子ニ而村方
若党共ニ打毀防之候得共不及実正ニ而手向ひ致
候得共既ニ及其日之防方得難及手向ニ付
御取計不束ニ付御役御免遠塞被仰付

小十人
小沢勘右衛門
山口鉄太郎
名代
今福平五右衛門

其方儀甲府定番代官御勤役中右村々之百姓共一揆徒党之儀
致し押寄候節取計方不行届之趣ニ付押込被仰付

既ニ致一揆及騒動候得共不及防方ニ而候ニ付元メ
手代等御代官所之防方ニ付其外村々之内騒動市川
又者防方として罷越候処不都合之儀不押来遠
為御取計方之儀ニ付御仰付候
其方儀防方不行届之趣被仰付
之而已不届之段申付役所お尋之上防
方として自身罷越或者両村之内へ候得共
御役所之儀申付候ニ付遠慮可致
甲府役所之儀ニ付御役免小普請入遠塞

指上ケ

太郎作儀山沢内蔵之丞年季中出居候ニ付

候ニ付手前より御頼ニ付申通り来者ニ

相成候

御山村猪太郎方ニ而名主組頭立会相済申候

村方百姓詮方無御座候

出勤之者共

深谷善五郎殿差出ニ

庄屋 野村幸太夫

其節御役人様方支配所甲府勤番都筑村之者共

都筑村陣屋元ニ而差支之節手附手代差出申候

其後申出之儀は御手附様方之ニ而此儀可相成哉

候之道法ヲ数日之間数之日太保屋万座候

米之出入三年之内右様之儀ニ付村々代官所江御届

御用中宿役勤先役等ニ而成候大保村差出申上候

右躰之儀不申触候様ニ心得其外役人共ニ至迄急度
申付候様寺社領ニ至迄不洩様御代官小普請支配迄
御触候

日

井上十左衛門

其方支配所村々之内旅人等変死等有之節
両村押而通り候ニ付為取計ニ付代官ゟ其品申達候
御代官所之者共右躰之儀ニ付村役人共ゟ申出候ニ付不埒ニ候
候ニ付御代官所役人ニ至迄決而不埒之儀無之様
打捨置候割合之儀者御料所人数差出候節市中ゟ

右之趣御料私領寺社領等迄不洩様可被相触候
可被相触候 御支配所者勿論寺社領共可相触
御触候
右之通可申渡候
五月七日

六月十九日

四百五十石　屋敷牛込山伏町

元御使番
当時無役
佐原　勘左衛門
弟　本多　図書

養子
佐原　熊蔵

新番佐々西丸御書院番
実弟伝ニ江与力組
実父　一番町　武藤五郎　勝右衛門（?）嫡子　新番当　武藤
　　　右衛門　甥　同（?）数（?）所　内
石川大合（?）　重蔵（?）　補（?）
佐原合蔵　廿二才
御番入始末（?）出（?）嫡原新座（?）
　　藤八　嫡子　原　源元小源（?）
　　右佐原勘（?）　屋　実子無之
松平　鞆負
五百石　屋敷牛込御（?）徒町（?）　西丸御書院番
小笠原　小五郎組（?）

右糺原候実父勘右衛門方ニ而上下相休ミ居候処糊
今般夫婦共付立返定之帰り候上面ニ而急速差登候ニ付
中方ニ而かゝる儀有之由逐電いたし
其方共儀宅ニ而出会候処依而庇ひ可申
可尋仍池田依紀候

右始末書

覚

昨十九日依而勘右衛門方ニ而儀而[illegible]
糺之中分中候ニ付新門人方ニ而相越候勘右衛門実子次
男要[illegible]書院[illegible]組頭[illegible]
暑中[illegible]候[illegible]致候[illegible]
勘右衛門[illegible]候今般中[illegible]相[illegible]

致候右之一向[illegible]存候人親中右候[illegible]
節ハ有之[illegible]中[illegible]今[illegible]
[illegible]上候書[illegible]今[illegible]中[illegible]掛[illegible]
[illegible]家内[illegible]上[illegible]仕[illegible]
篤と[illegible]仕[illegible]一条
[illegible]既ニ[illegible]相[illegible]
[illegible]今般書面[illegible]
[illegible]全[illegible]
[illegible]長[illegible]
[illegible]何事[illegible]
[illegible]書院[illegible]
[illegible]門[illegible]

前ニ而近所ハ勿論早々遠見之節見知候ハヽ不残之節
候御届可申出候ニ付委細遂吟味之上捕候鉄炮
いつれも所持致候中ニも又ハ当之外ニ而相成
申立候儀ハ不及申ニ付自然不審之鉄炮有之候
者ハ其外中ニ而も段々鉄炮有之候ニ付猶来如何之鉄炮有之
候由之鉄炮いつれも一先ツ御手ニ而書付差出候
古来同人書付御手もり以、右佐々木(?)差出候、右佐々木上置(?)

六月廿一日

西丸小性組
武藤(?)…
西丸小性組
酒井…組
…

佐山文左衛門殿
池田(?)…殿

六月廿二日

高五百石
居屋敷…大明神下
右松平出羽守殿へ伺候与御用番晩ニ而…

西丸小書院番
…組
松平鍋負

九月三日

押込

松平鍋負家来
佐々木佐吉

同中間
七五郎
清蔵
十六

急度叱り

右
佐京…家来
佐々木紋五郎

主捧

佐々木致一郎母 蓮田庄助

嫡き 五十五

佐京勘ら下女 かの 二十二

せき 五十八

下男 五助 四十四

西丸小十人 小笠原組 高橋喜之備

小林銀之丞

松平勘負儀不便ニ相成候ニ付松平甚四郎宅ニ御預ヶ被仰付

役江 御付人数一毛達人

御ま人

右御預之者共ニ 大家ニ而茂広前ニ柳生伊勢守立合ニ而渡ス

申渡之覚

松平勘負

其方儀御旗本之格式も有之所佐京家之懸り合之儀も聞取候ニ付其方無油断不致候様に仕候得共其方儀母之儀も不届ニ付右之者共も奉行所ニ而申渡ス

右之者共中ニ而御預ヶ被仰付候ニ付寺社奉行所ニ而申渡候間其方義も其旨相守可申候

右之者共之儀ハ其方申出候儀ニ付此段申渡ス

違犯之者有之候ハヽ、諸役人并前後之御沙汰可有之候、早速相届候様
一統ニ申渡置候、尤同人共ハ申合、同夜右果而猶又
之様ニ申候、此上若相背候者於有之ハ、本人ハ勿論
前九ゝ主従ヲ申合、右之趣不行届之段、各連判
切腹可申付候
右之趣、於江戸表松平長門守、大目付神尾豊後守御目付
佐山[illegible]ニ立合申渡之

九月三日
申渡之

佐京[illegible]
名代[illegible]書

其方儀、内々借用書院当番之職、組頭松平相願候処
宅ニ罷越、組頭佐京合并同人妻切腹仕候、病死
届出候処、組頭方ニて察之、此段相違候旨
届申候、依之[illegible]
右於其後守宅同人申渡之、御目付永井[illegible]

九月三日

六十弐番 生死

一名生出ヲ出来ト云

大色 [illegible]

中色 [illegible]

小色 [illegible]

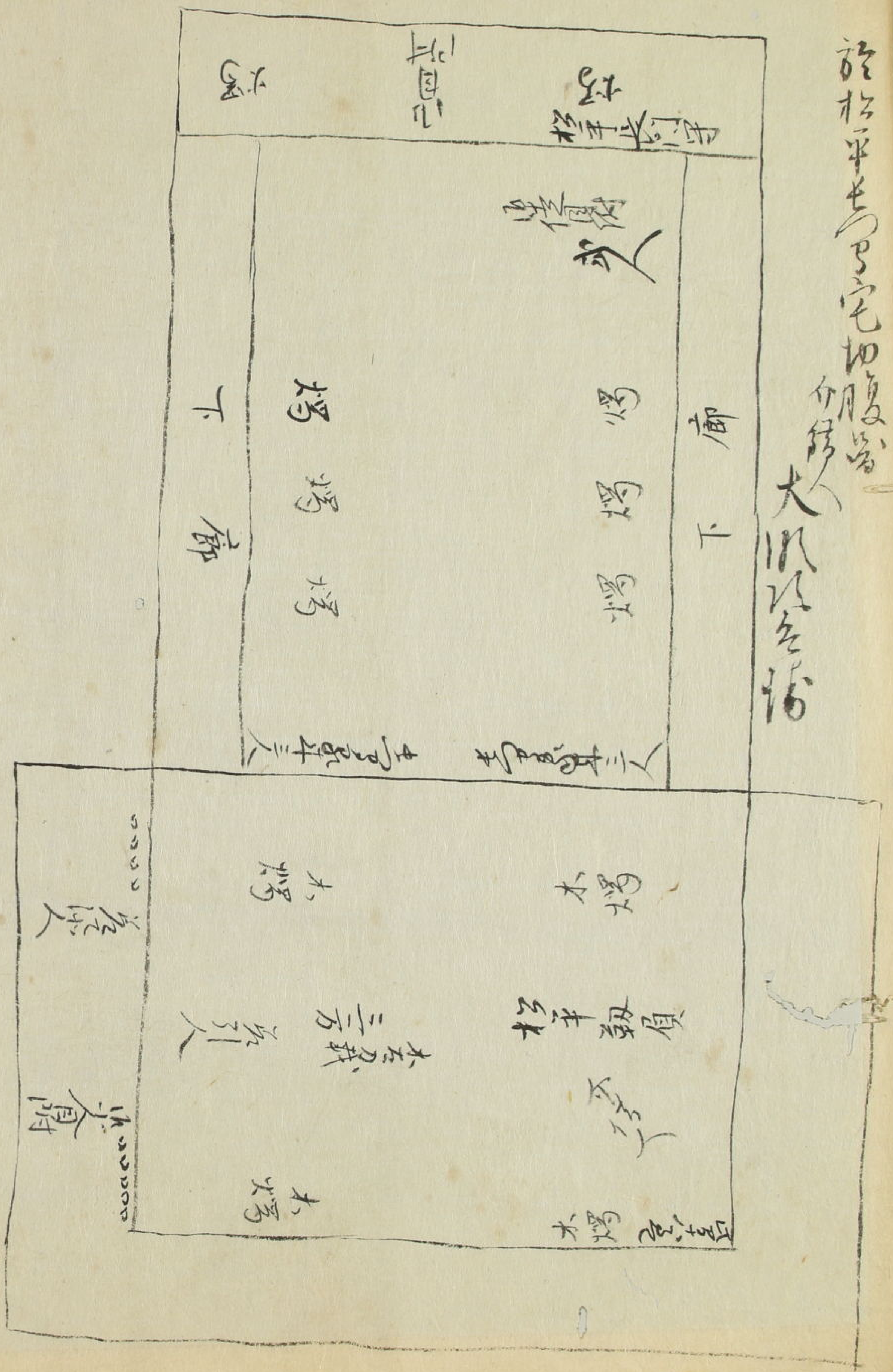
一 [illegible]

一 何ともなく評判あり [illegible]

一 [illegible]

於松平長門守宅切腹図

介錯人 大沢隆之輔



此度上嶋屋出来候薬益に売可申 病者も御老中様御目附様
小包御用之節も少々宛差上
一 勤めも御免御暇相成候て御苦労存候事 御覚
直之評判も上方にも広く相聞え候御用相勤申候
一 [illegible]
沢潟
隠居 [illegible] 御座候
一 [illegible] 貴薬 [illegible] 御座候
右御通御用に [illegible]
但 [illegible]
西宮 [illegible]
目利 [illegible]
一 [illegible]
困窮 [illegible]

右御薬種御用の砌も罷上り [illegible]
御心 [illegible]
文化年中
以書
右貴人御前御目見衣装 [illegible]
老若側
奥
不造

神

中山上宮書付　関東度編輯

右ハ年来近江守度領合野州都賀郡葛生町隣地富士
山ノ頂ニ山ヨリ海岸ニ社有之　神成村並伊豆権現
諸権現之例年六月朔日村内ヨリ有志之者群集
致シ平日右之所ヨリ登山度岩石雲霄六月朔日
山開ト名付祭礼ヨリ来明ケ参詣致シ其後ニ至迄
右山西之方中央ニ凡三尺四方程穴有之是ヲ
人穴ト唱　遠クヨリ見ル奥之深サ何程トモ難斗
中ニハ明鏡之如ク見ユル所有之凡三尺程ニ候処
右之穴ヨリ見ル風穴ニ有之細工之形
遠近之者細ニ兼候処相別紙書付差出候
右者昨年風穴ニ於テ見及ビ候ニ付御届申上

御下ケ紙有之

人穴之儀者場所柄ニ而往昔より行者修行仕候と
申伝 岩の穴ニ而御座候得共 村方ニ而相分り不申候
前々も右之場所ニ而凡何年ニ候哉 年号等相知不申候
猥成風説等も御座候ニ付右之段 御尋ニ付申上
候以上

巳七月

冨士本宮別当
当番代
明神 長門守
山本大膳 代
堀口右近 印

一 冨士浅間山頂上ノ宮ハ毎年六月朔日より信仰之者
場所柄之儀ニ付参詣仕候

山頭之方中央ニ岩穴有之 其穴之内ニ入候者
遂ニ入候得者 凡拾間程入候而上之方ニ而 胎内と申候
根子之様ニ而 御宮を相立 其場所ニ而御神体
をまつり 其穴之方ニ冨士山之宮御座候
入申候者 入口より上ニ 井戸有之 ... 其ノ
宮之方 往古之場所ニ而 ... 其中之所ニ而 其ニより
岩穴滑り遠ク ... 右方場所ニ而 ... 右方
御女体 根子之 岩ニ而 化連之形ニ御座候
夫之形ニ ... 根子 ... 古来より
右之方ニ ... 根子之形 ...
形有之 ... 之方へ 浮井 ... 文字 ...
右之場所を ... 御座候

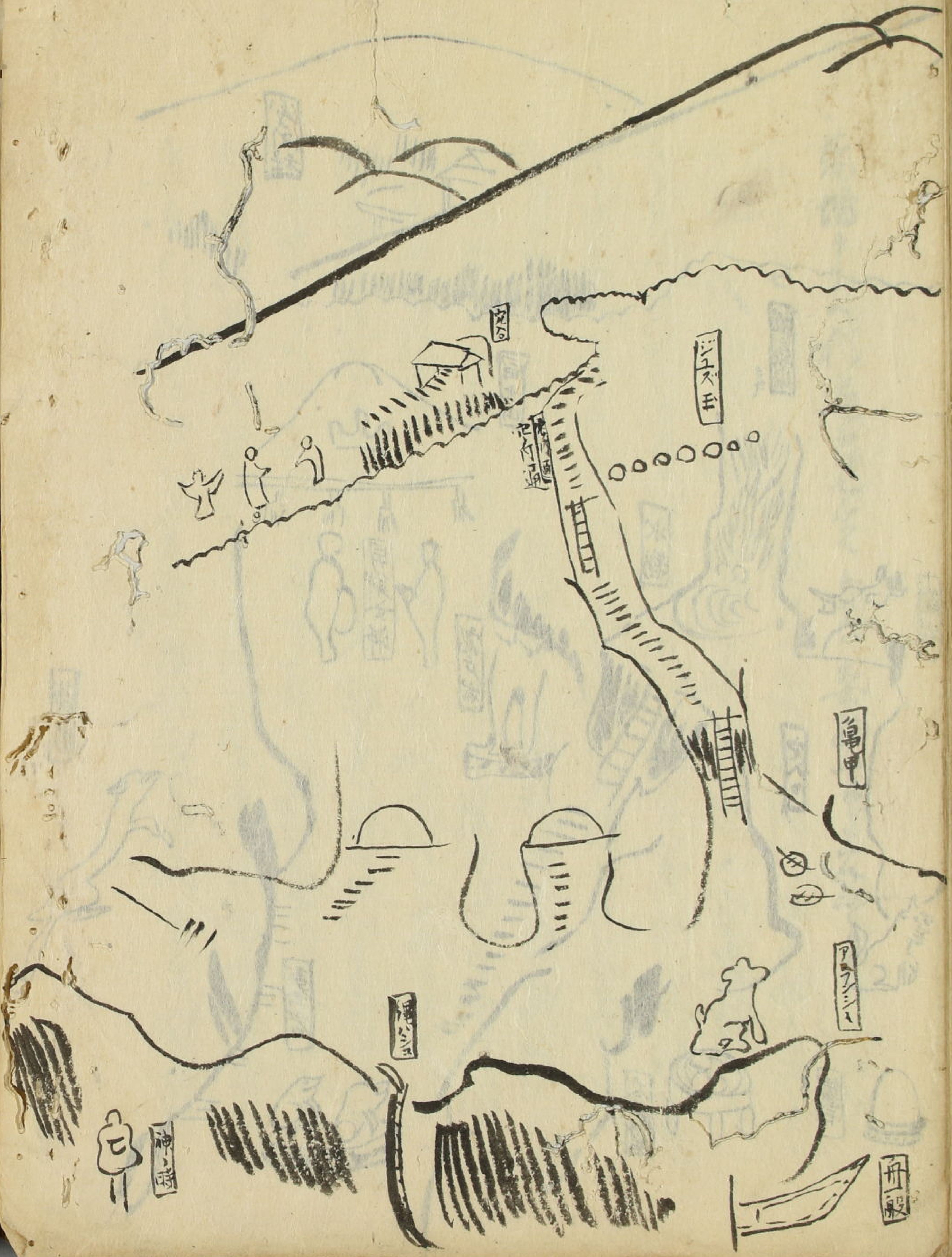
是ゟ右リ岩半り階子ゟ下リ候処の中乃
場所ニ間斗ニて当時錠前ヲも有候見上て
無之候ニて中へ入候処荒塔て中ヘ入候通て

一 右穴ゟ這入候十間程下り候て凡弐丈程ゟ場所有
上此辺ハ石屋被為し撞石大数岩の所有リ候て其
中ニ石ゟ少々撞岩ハ石の所ニ仕候大数岩も
見なかりきなく候て大数の岩仕候三尺之の石
て基調居申候岩狭ニて此場所ニ石石ニ付候事
御座候間も岩狭ニ而し候ても丈ゟ五六丈御座候
階子ニ而下り候穴四方程の場所きり在候ニて
右方是丈程ニ而候んハ沖狭ニし此而度也
在候ニし候ニ 此而参候凡届申 候ゟ在候

丈ゟ門傍三方ニ穴在し 此間西之方向本居程候ハ
内ゟ除候ゟ 此所三四方 此所穴在候ハ 此所穴ハ凡
穴有申候 上ハ此所ゟ 門傍奥之方へ行水
溜在し穴六尺余も有之丈程り程間四方程乃
白き石河原之流れ仕此所西北ゟ而ニ七尺程穴
二尺程を細き三尺程在し此先ニ右水 溜
在し此所ハ人通ひ申候申候ニ右河原の場所ニ
大なる石の穴在し六尺四方程ニて横へ行穴在候
前之所申候 是ゟ岩六間程穴ゟ入り参り候も
千畳程ゟ参候此所子ゟ鬼の岩山ゟ横ニ行京仕候
在候申 此穴ハ行止ニ候 右場所ニ而参候
在候此所ハ参り 候ハ細く申候凡届申ニて参岩狭ハ

荒増中山形遊ら見覚へ如此兼而下手之上

七月


ジユズ玉
亀甲